

うめだ「子供の家」 2025年度 保育所安全計画

◎安全点検

(1) 施設・設備・園外環境（散歩コースや緊急避難先）の安全点検

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
重点点検箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・園内外の安全点検に関する年間スケジュールを定める ・年齢別安全点検表の作成 ・園内外の環境の点検、整備、清掃 ・保育室の建具、遊具、用具の点検、整備、清掃 ・防犯システム点検 ・非常通報システム保守点検 ・エレベータ定期点検 ・ガス設備定期保安点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・園外保育・遠足等の目的地の实地踏査 ・害虫駆除 ・早朝・夕方・延長、土曜保育の環境の点検、整備、清掃 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の動線を考え、室内での安全な遊びの場づくりの工夫 ・プールの清掃、水遊びの遊具、用具の安全点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・熱中症予防のための冷房や換気の活用 ・非常通報システム保守点検 ・エレベータ定期点検 ・昇降機定期検査 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季保育期間中は園舎内外の施設、設備の見回り ・新学期が始まる前に、保育室内外の清掃、遊具、用具の安全点検 ・消防用設備保守点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・使い慣れた遊具、場所の安全指導の徹底 ・危険な行動に対する、職員同士の共通理解、指導の徹底
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
重点点検箇所	<ul style="list-style-type: none"> ・戸外での遊び、遊びの場、幼児の遊びの動線への配慮 ・非常通報システム保守点検 ・エレベータ定期点検 ・砂場消毒 	<ul style="list-style-type: none"> ・電車を使つての遠足では、使用する駅のホームの状況も含めて遠足の实地踏査 ・暖房設備の点検、使用するための準備 	<ul style="list-style-type: none"> ・室内での遊び、狭い遊び場での安全管理 ・職員同士の連携・調整 ・暖房の温度、室内の換気に留意 ・室外機点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・積雪時の園庭、園舎の安全確認 ・非常通報システム保守点検 ・エレベータ定期点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・登降園時の安全、大地震発生時の避難場所、連絡方法を再確認 ・消防用設備保守点検 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年間の安全点検の評価・反省 ・次年度の防災組織等の再編成 ・建築設備定期検査 ・園庭遊具総合点検

(2) マニュアルの策定・共有

分野	策定期期	見直し(再点検) 予定時期	掲示・管理場所
重大事故防止マニュアル			
□午睡時緊急対応	2016年3月	2025年5月	クラス掲示、きつずノート
□食物アレルギー対応	2012年2月	2025年5月	業務マニュアル・事務室
□誤嚥・窒息事故防止	2016年3月	2025年5月	きつずノート
危機管理・安全保育	2022年6月	2025年12月	きつずノート
園外活動(散歩等) マニュアル	2019年6月	2025年5月	きつずノート
プール・水遊び	2019年12月	2024年5月	きつずノート
防災マニュアル(BCP)	2006年11月	2025年10月	きつずノート
119番対応時マニュアル	2016年3月	2025年12月	きつずノート
救急対応時マニュアル	2016年3月	2025年12月	きつずノート
不審者対応時マニュアル	2017年12月	2025年12月	きつずノート

◎児童・保護者に対する安全指導

(1) 児童への安全指導(保育所の生活における安全、災害や事故発生時の対応、交通安全等)

	4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
乳児・1歳以上3歳未満児	<p><保育所の生活における安全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・エレベータは一人で乗らない ・遊びの場や道具(固定遊具を含む)、用具の使い方 ・小動物のかかわり方 ・困ったときの対応の仕方 <p><災害や事故発生時の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難(防災)訓練の意味や必要性 ・職員など大人の指示に従う ・避難の仕方 ・避難訓練の合図(非常ベル、サイレン、放送・緊急地震速報、警笛等) ・「おはしもち」の約束 	<p><保育所の生活における安全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・水遊びのきまりや約束・暑い日の過ごし方 ・熱中症予防の水分補給 ・遊び場や遊び方、休息 ・夏季の生活について(安全で楽しい過ごし方) <p><安全な登降園の仕方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の安全な歩き方 ・雨の日の安全な歩行の仕方 ・傘の持ち方 	<p><保育所の生活における安全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な遊具の安全な使い方、遊び方 ・ボール(蹴る、投げる等)の遊び方 ・体を動かして遊ぶ・室内にこもらず、戸外で遊ぶ ・危険につながる服装 ・冬の健康な遊び方、安全な行動の仕方 <p><災害や事故発生時の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・不審者対応 ・不審者が園に侵入したときの避難の仕方 	<p><保育所の生活における安全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の交流場面での安全に関する約束の確認 ・暖房機の危険性、安全に関する約束 ・雪の日の安全な遊び方、身支度の仕方

	<ul style="list-style-type: none"> ・「いかのおすし」の約束 ・ 防災頭巾等のかぶり方 ・ 火災：非常ベル、地震：チャイムと放送で伝達 ・ 火災時は靴を履きかえない ・ 地震時は靴を履きかえる ・ 職員の指示を聞いての避難 		<ul style="list-style-type: none"> ・「いかのおすし」の約束 	
<p>3歳以上児</p>	<p><保育所の生活における安全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エレベータは一人で乗らない ・ 多目的トイレに入らない、鍵を掛けない ・ 遊びの場や道具（固定遊具を含む）、用具の使い方 ・ 小動物のかかわり方 ・ 困ったときの対応の仕方 ※新しく使える遊具や用具、場所の使い方 <p><安全な登降園の仕方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初歩的な交通安全の約束（親子で手をつなぐ） ・ 自転車登降園での約束 ・ 子どもだけで扉の出入りはしない ・ 園外保育での安全な歩き方 ・ 並ぶ、間隔を空けない等 <p><災害や事故発生時の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難（防災）訓練の意味や必要性 ・ 職員など大人の指示に従う ・ 避難の仕方 ・ 避難訓練の合図（非常ベル・サイレン、放送・緊急地震速報、警笛等） ・ 「おはしもち」の約束 ・ 「いかのおすし」の約束 ・ 不審者対応（紙芝居を使う） ・ 防災頭巾等のかぶり方 ・ 火災：非常ベル、地震：チャイム 	<p><保育所の生活における安全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水遊びのきまりや約束 ・ 準備体操 ・ プールでの約束 ・ 暑い日の過ごし方 ・ 熱中症予防の水分補給 ・ 遊び場や遊び方、休息 ・ 夏季休業中の生活について（安全で楽しい過ごし方） ・ 花火の遊び方 ・ 外出時の約束 ・ 一人で遊ばない <p><安全な登降園の仕方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 道路の安全な歩き方 ・ 標識、標示（とまれ等）の意味 ・ 安全確認（両足をそろえる、左右を見る）の仕方 ・ 雨の日の安全な歩行の仕方 ・ 傘の持ち方 <p><園外保育での安全な歩き方></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乗り物に関する約束 ・ 車中での過ごし方 	<p><保育所の生活における安全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 様々な遊具の安全な使い方、遊び方 ・ ボール（蹴る、投げる等）の遊び方 ・ 体を動かして遊ぶ・室内にこもらず、戸外で遊ぶ ・ 危険につながる服装 ・ 冬の健康な遊び方、安全な行動の仕方 ・ 縄跳びの縄の扱い ※5歳児：後に使う人の安全を考えた片付け方 ・ 集団で行動するときの約束 ・ 職員の指示を聞き、自分から気を付ける ・ 園外保育・遠足を利用し、信号機の見方、道路の歩き方等の体験的な指導 <p><災害や事故発生時の対応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不審者対応 ・ 不審者が園に侵入したときの避難の仕方 ・ 「いかのおすし」の約束 ・ 交通量の多い道路での歩行、横断 ・ 寒い日の安全な身支度 	<p><保育所の生活における安全></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の身の回りの安全に自ら気付き、判断し行動する ・ 担任以外の教職員の指示 ・ 異年齢の交流場面での安全に関する自主的な約束の確認 ・ 暖房機の危険性、安全に関する約束 ・ 雪の日の安全な遊び方、身支度の仕方 ・ 寒い日の安全な歩き方 ・ 雪や凍結している道の安全な歩行 ・ 交通安全のために、自分で判断して行動する ※5歳児：小学校付近の道路の危険な場所、安全な歩行の仕方

	と放送で伝達 ・火災時は靴を履きかえない ・地震時は靴を履きかえる ・職員の指示を聞いての避難			
--	--	--	--	--

(2) 保護者への説明・共有

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会、園だよりで周知 ・園生活を安全に過ごすためのきまり、約束を連絡（登降園の仕方、園児引渡しの仕方、きつずノートやブログによる連絡の仕方、出欠の連絡、けがや病気に関する連絡方法、災害時の対応） ・通園状況の把握 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会、園だよりで周知 ・定期健康診断の結果連絡、健康で安全な生活についての意識の高揚 ・きつずノートやブログを使った練習 ・水遊びのための健康管理 ・夏の生活に必要な安全（雨天時の歩行、登降園時に親子で注意、熱中症への配慮） ・登降園時の落雷や集中豪雨等の自然災害への対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会、園だよりで周知 ・園生活を安全に過ごすためのきまり、約束を連絡（登降園の仕方、園児引渡しの仕方、きつずノートやブログによる連絡の仕方、出欠の連絡、けがや病気に関する連絡方法、災害時の対応） 	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者会、園だよりで周知 ・登降園時の安全、大地震発生時の避難場所、連絡方法などを再確認 ・降雪時の登降園時の歩行、身支度などへの配慮について連絡と協力依頼 ・就学に向けての心構え（危険な道路、場所、安全な交通行動等に関する指導）休み中の生活

◎訓練・研修

(1) 訓練のテーマ・取組

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
避難訓練等 ※1	種類：火災訓練Ⅰ 目標：火災ベルを聞く。火災時の対応の仕方を知る。各避難場所に避難する。 内容：火災の避難訓練の説明。ベルの事、「おかしも」の約束、靴を履き替えない事など。	種類：地震訓練Ⅰ 目標：地震時の対応の仕方を知る。各避難場所に避難する。 内容：地震の避難訓練の説明。机の下にもぐって身を守る。防災頭巾をかぶる事の練習。	種類：火災訓練Ⅰ 目標：火災時の対応。引取引渡訓練。 内容：通常の火災訓練の後、降園時間に合わせて引渡し訓練を行う。	種類：火災訓練Ⅱ 目標：消防署員による指導で通報、消火訓練を行う。方法Ⅱでの訓練。 内容：通常訓練後、消防署員の話しを聞く。防災用火災紙芝居を読む。	種類：地震Ⅱ 目標：午睡時の対応。方法Ⅱでの訓練。 内容：起床間際に発生した場合の避難の仕方を身につける。地震発生の非常ベルで起床し、午睡当番やクラス担任の指示を聞いて避難する。	種類：地震・水害Ⅱ 目標：警戒宣言発令時の対応。水害時の対応。引取引渡訓練 内容：警戒宣言発令時と水害発生時の対応、それに伴う引き渡し訓練を降園時間に合わせて行う。ホールで引き渡し。

その他 ※2			救急対応（痙攣時の対応について） 講師：角田祥子医師	・消防署の指導により教職員の通報訓練、初期消火訓練（内部） ・心肺蘇生法（AEDを含む）の研修（内部）		
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
避難訓練等 ※1	種類：火災Ⅱ 目標：火災時の対応。方法Ⅱでの訓練 内容：避難時に外階段を使用する練習。クラス担任の指示を聞いて避難する。	種類：地震Ⅲ、不審者Ⅰ 目標：地震は方法Ⅲ、不審者は方法Ⅰでの訓練。 内容：クラス担任の指示を聞いて避難する。不審者が現れたときの避難の仕方を身につける。紙芝居を読む。	種類：火災Ⅱ 目標：方法Ⅱでの訓練。 内容：通常訓練時に園庭からあげぼの学園まで避難する。	種類：火災Ⅲ 目標：方法Ⅲでの訓練。 内容：2学期までの訓練と反省を活かし火元確認後、避難する。（いんくる保育クラスも参加する→○グループ）	種類：火災Ⅲ 目標：方法Ⅲでの訓練。 内容：2学期までの訓練と反省を活かし「おかしも」を守って避難する。（いんくる保育クラスも参加する→○グループ）	種類：地震シェイクアウト訓練。火災Ⅲ 目標：足立区のシェイクアウト訓練に参加する。方法Ⅲでの訓練。 内容：足立区のシェイクアウト訓練に参加する。体を低くする→頭を守る→動かない（1分間）を行い、避難できる体制（整列）になる。今までの訓練と反省を活かし火元確認後、「おかしも」を守って避難する。
その他 ※2			※足立区子どもの安全安心プロジェクトによる。「しってて“おとく”！～ユウタくんのおでかけ～			

※1 「避難訓練等」・・・設置運営基準第6条第2項の規定に基づき毎月1回以上実施する避難及び消火に対する訓練

※2 「その他」・・・「避難訓練」以外の119番通報、救急対応（心肺蘇生法、気道内異物除去、AED・エピペン®の使用等）、不審者対応、送迎バスにおける見落とし防止等

(2) 訓練の参加予定者（全員参加を除く。）

訓練内容	参加予定者
救急対応（痙攣時の対応について）	園長、主任、看護師、保育士
救急対応（心肺蘇生、AED）	新入職員、同種の訓練を受けてから3年以上経過した職員

(3) 職員への研修・補習（園内実施・外部実施を明記）

4～6月	7～9月	10～12月	1～3月
・遊具の安全点検の仕方に関する研修（外部）	・消防署の指導により教職員の通報訓練、初期消火訓練（内部） ・心肺蘇生法（AEDを含む）の研修（内部）		

(4) 行政等が実施する訓練・講習スケジュール

※所属する自治体・関係団体が実施する各種訓練・講習スケジュールについて参加目途にかかわらずメモする

別紙参照（防火管理者講習、救命講習のご案内）

◎再発防止の徹底（ヒヤリ・ハット事例の収集・分析及び対策とその共有方法等）

職場環境を安全なものにするために重要なのが危険予知トレーニングである。危険予知トレーニングは、危険（Kiken）、予知（Yochi）、トレーニング（Traning）の頭文字を取ってKYTとも呼ばれている。

ヒヤリハット報告書を作成する際は、誰にでも事例の内容が伝わるように、わかりやすく記載することが重要である。必要に応じて箇条書きを取り入れるなどして、簡潔に書くこと。また、できる限り個人の主観を交えずに、客観的な事実に基づいて記載する。推測したことを書く際は、それが個人の推測であることがわかるように記載する。報告書は関連部署や第三者が閲覧する可能性もあるため、専門用語や一部でしか通用しない用語は使わず、できるだけ一般的な表現を意識することも大切である。

ヒヤリハット報告書は、事例発生後できるだけ速やかに記入する。できれば、報告事例が発生した当日中に書くのが理想である。

ヒヤリハット報告書に基づく話し合いは、事後速やかにクラス連絡会議で行う。以下の4つのラウンドに分けて段階的に進める。

1. 現状把握（どのような危険が潜んでいるか）
2. 本質追求（危険のポイントはどこか）

3. 対策樹立（あなたならどうする）

4. 目標設定（私たちはこうする）

重大事故の原因となるヒヤリハットは、いつでも誰にでも起こりうる。ヒヤリハットは職場環境やルールの不備などが原因であることも多く、その場限りの問題として処理していると、いつか重大な事故に発展する可能性がある。ヒヤリハットが起こった際に「大きな事故にならなくて良かった」と安心するだけではなく、小さなことでも職場で共有し、再発防止に組織全体で取り組むことが大事である。

年度末にはその年度に発生したヒヤリハットを見直し、次年度に向けて職員全体で再発防止策を確認する。

◎その他の安全確保に向けた取組（地域住民や地域の関係者と連携した取組、登降園管理システムを活用した安全管理等）

災害発生時に連携や協力が必要となる関係機関としては、消防、警察、医療機関、自治会等がある。また、近隣の商店街や企業、集合場所住宅管理者との連携が考えられる。法人・園の存在を知ってもらい、いざという時に連携が可能となるように「からしだねフェスティバル」（法人合同イベント）を開催し、地域との関係づくりの一助とする。

消防署員の来園による消防訓練・通報訓練の実施、警察署員による不審者訓練や交通安全教育の機会を隔年毎に実施する。

同法人の姉妹施設うめだ・あけぼの学園とは日常的交流を行っているため、非常時の避難場所や職員の協力体制を構築している。

登降園管理システム：きっぷノートやブログを活用して日常的な保育情報を共有するとともに、緊急時には情報提供を行う。